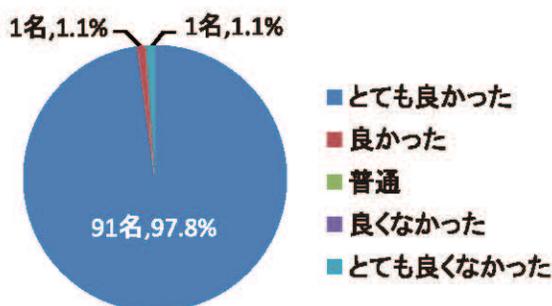


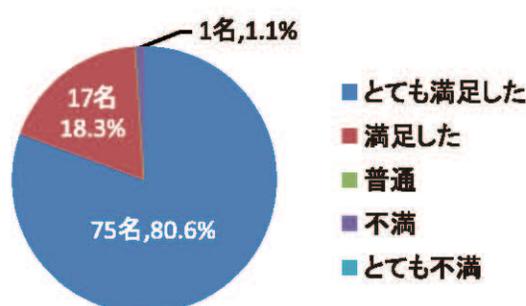
平成24年度 へき地校体験実習 事後アンケート (平成24年11月28日現在)

実施者：北海道教育大学 学校・地域教育研究支援センター へき地教育研究支援部門
 実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配布
 実施期間：平成24年9月～11月
 対象者：104名（札幌・旭川・釧路校 へき地校体験実習〔夏期〕履修生）
 回答者：93名（回答率89.4%）

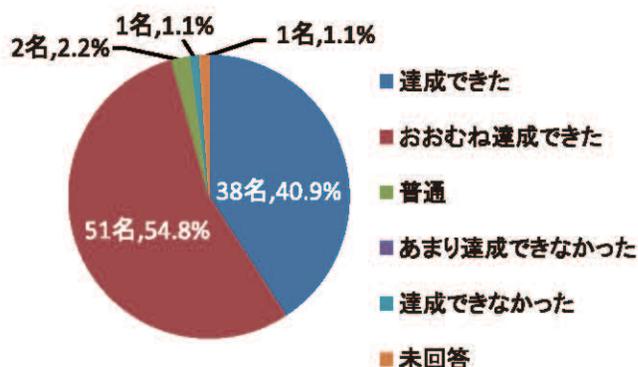
1. 実習に参加してよかったか



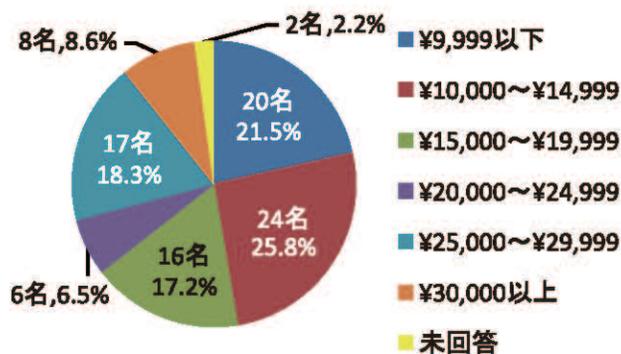
2. 実習の満足度は



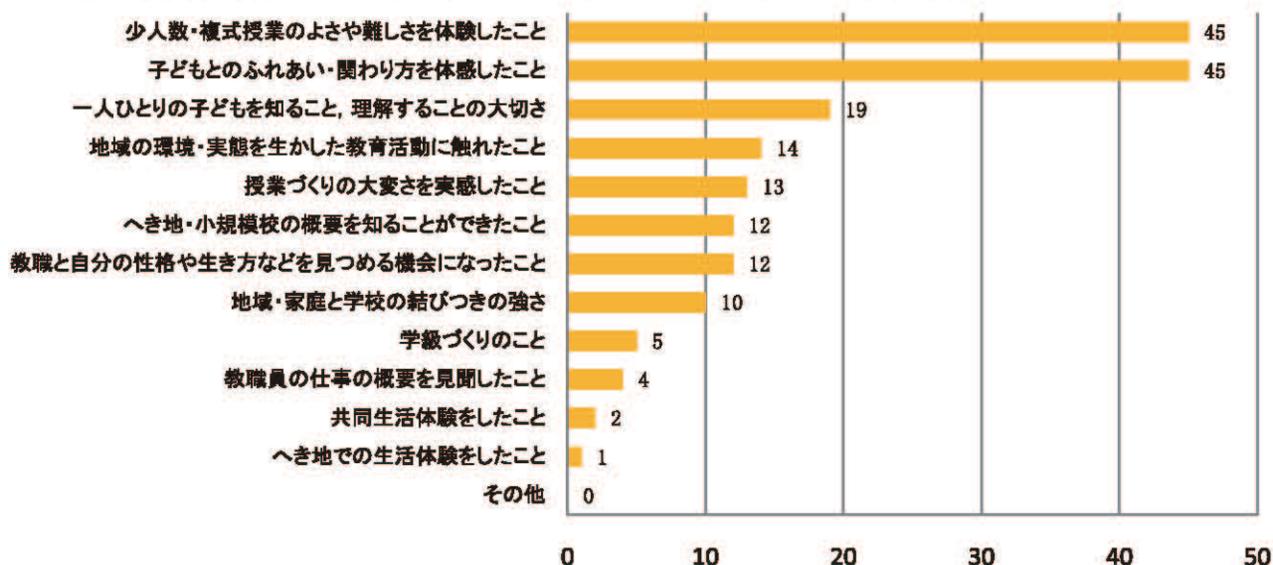
3. この実習で学ばれたことに対する達成度



4. 実習経費



5. 今回の実習で最も大きな成果・学んだこと・感じたことなど(1名2項目回答)



※4名が未回答, 2名が3項目, 1名が4項目回答している

6. 実習を終えた感想

- ・1週間はあっという間でした。子ども達は明るく元気だし、先生方は皆家族のように温かくて、毎日が幸せでした。授業づくりで遅くまで寝ることができない日もありましたが、学校に行くことが楽しかったので乗り切ることができました。先生方に「いい先生になってね」と言われたことが励みになりましたし、子ども達の「また来てね」も忘れられません。先生という仕事の大変さも感じましたが、やりがいを感じられた1週間でした。
- ・非常に充実した実習であった。もっと実習期間が長ければ、もっと多くの実践ができたのに、と少し残念な気持ちもある。小規模校ならではの人のつながりを感じることができて本当に良かった。
- ・とにかく参加して良かった。教職を目指そうという気持ちが強まり、今後の大学生活にも何かしらの影響が出てくるであろうと思う。もっと勉強しなくては、とも感じたし、自分の力不足も明確になった。この実習を糧に、残る主実習や大学生活を頑張りたい。
- ・実習を終えた感想の第一には、非常に充実感のもてた5日間であったということである。実習前は、児童とはどのように関わっていくのが良いだろうか、研究授業では1時間を行うことが自分に本当にできるのだろうかという不安でいっぱいであった。しかしながら、実習が始まると、児童・生徒との関わり方や授業構成の第一歩からを指導教諭の先生をはじめとして、先生方の多くの助けを得て、体験的に学ぶことができてとても良い時間を過ごさせていただきました。
- ・生徒達がとても生き生きとしていて、毎日会るのが楽しみだった。先生方もとても親切だった。地域の人達も歓迎してくださって、勉強だけでなく、心も洗われた気がする。
- ・本当に充実した5日間を過ごすことができ、とても楽しかったです。自分が学びたかったことを学ぶことができたし、子どもとたくさん関わることもできました。また、教壇実習などを通して、本当にたくさんのことを学ぶことができました。行って良かったと思います。
- ・最初のうちは辛いと思うこともあった。後半は授業作りで、ほとんど寝られなかった。しかし、充実感や達成感はこのでしか得られないものであったし、たくさんのことを考えられる5日間だった。
- ・辛いこともあったけれど、終わった後は達成感と本当にへき地校体験実習に行って良かったという気持ちでいっぱいでした。この経験は将来、絶対に自分のためになるし、終わった後何かしら成長できた自分がいました。今回の経験を活かしてこれからも教師になるために頑張っていきたいです。
- ・大学の講義では学ぶことのできない貴重な体験ができました。授業の体験を6回させてもらい、その度に発問の仕方の難しさや、指示によって子どもの行動が変わるということを感じ、教師という仕事の難しさを知り、学び続けることの大切さを身をもって知りました。また出会った先生、子ども、地域の方が素晴らしい方ばかりで、この出会いは一生の財産になると思いました。
- ・子ども達も先生方も、とにかく生き生きとしていたのが印象的で、自分がもし将来教職に就いた場所がこんな学校だったらとても幸せだと思う。打ち解けるのに少し時間がかかってしまったが、子ども達と充実した時間を過ごすことができた。研究授業は大変だったが、現職の先生方に見て頂ける貴重な機会で大変有意義だった。この実習を無駄にしないようこれからを過ごしていきたい。
- ・はじめこそ少し子どもとの距離があったが、徐々になくなり、子どもとも仲良くなることができ本当に楽しかった。また教職員の方々にも良くしてもらえて貴重な経験となった。
- ・1週間とはとても早いもので、一日一日があっという間に過ぎていった。実習校の先生方、児童達はとても人柄が良く、アグレッシブで、人間関係に困るということはなく、充実した実習ができた。小規模校ならではの授業形態や先生方のつながり、児童のつながりなどへき地って良いな！と思わせてくれる体験ができた。
- ・へき地校体験実習は学ぶことが本当に多かった。へき地における指導方法はもちろんのこと、実習全般の雰囲気や、大規模校でも通用する指導方法も学ぶことができた。今回の実習では自分にとってたくさん勉強する機会となった。
- ・最初は中学生ということで、不安の気持ちでいっぱいでしたが、実際に行ってみると子ども達はとてもかわいくて、先生方もとても優しく本当に行ったら良かったと感じました。子ども達の一つ一つの言動が忘れられません。専門科目(英語)を主に見させてもらい、空いている時間には他の教科も、学級の業務もさせてもらい、いい経験になったと思う。

- ・最初は初めての實習で戸惑うことばかりだったが、實習経験のある4年生にいろいろ教わり、比較的スムーズに行うことができた。授業をやらせていただいて、指導案づくりや教具づくりなどを経験できて、将来の實習に生かすことができると思った。町民の方々がみなさん優しく嬉しかった。
- ・子ども達とふれ合うのが大変だったけれど、それ以上に楽しかったです。たった5日間という短い期間でも、人数が少ない分一人ひとりの性格、個性がしっかりわかったし、子ども達からもたくさん話しかけてくれたのが嬉しかったです。2学期の始業式からの實習のスタートだったため、国語や算数などの勉強だけでなく、学活など、学級づくりの場面を見ることができたのが良かったです。
- ・實習期間は、實習手帳の記入や授業準備などで、あまり睡眠がとれず、大変だったが、子どもとふれ合うこと、実際に授業をすること、これらの経験は、3年生の實習にも役立てることだと思うので、實習に参加して良かった。
- ・これまでずっと札幌市内の大規模校で過ごしてきたので、へき地・小規模校の実態を見聞することができ、都市部とは違った課題を抱えている様子がわかった。環境は違っても同じ子どもだとも感じた。少人数を指導する授業形態はきめ細やかな支援を実現する、教育の原点ともいうべき姿だと思う。大変勉強になった。
- ・子どもと触れ合う楽しさ、教師としての喜びや大変さを感じた。教師であることの責任も身をもって感じ、これから自分がどうしていくか考える材料になった。
- ・何よりも、研究授業への経験が、一番得たものであると感じている。実際に授業をしてみないとわからないことがたくさんあると感じた。また、素直な感情表現の子ども達に触れ合うことができたことも良い経験であると感じている。
- ・へき地校体験實習に参加して、へき地校や複式学級の実態を知ることができただけでなく、地域との関わりや実習生同士の関わりなど本当に多くのことを学ぶことができた。生まれて初めて子ども達に授業をして、上手くいかないことも沢山あったが、確実にこれから教員を目指すうえでの自信とやる気につながった。また、北海道の教員採用試験を考えるきっかけにもなった。
- ・子ども達が本当に素直で可愛かった。しかし、一方でへき地の難しさも学ぶことができた。地域との関わりが深く、外とのコミュニケーションも必要不可欠だと思った。
- ・1週間という短い時間でいかに積極的に子ども達とかかわっていくことが大切かを知った。一度気軽に話してみると、素直でかわいい子ども達は、いろいろなことを話してくれるし、1年～6年まで学年関係なくたくさんふれ合うことができる。とてもかけがえのない宝物となったし、本当に楽しかった。この實習に行くことができて、本当に良かったと思う。
- ・たった1週間だったが、普段の生活圏から離れ、自分を追いこむことにより、本当に一生懸命になって、たくさんのことを学ぶことができた。また、子ども達一人ひとりと濃厚に関わることができ、今後の自分を支える、かけがえのない思い出ができたことも、この實習の意義であった、と感じる。この様な機会を与えてくださった方々に感謝すると同時に、この取り組みが絶えることなく続けばいいな、と思う。
- ・實習を終えて、小学校の先生になりたいという気持ちが高まった。また、へき地で先生をするのも良いなと感じた。子どもが少ないので、一人ひとりの距離が近いし、丁寧に対応することができる。また、家庭や地域ともつながりが深いため、学校のある区域全体が子どもを育てようと同じ方向を見ている気がした。子ども達は、素直で可愛らしく、人なつっこい子が多く、子ども達と一緒に過ごした日々はとても楽しく、充実していた。
- ・へき地校体験實習の5日間は本当に充実した日々でした。へき地校のよさや地域の人々の温かさ、教師という仕事のやりがいを感じることができ、教師への思いが強くなりました。行って良かったと心から思えます。
- ・實習を終えて、学校教育については勿論、生活面においても成長できるものであった。仲間と一緒に一週間同じ所で過ごすことで、自分の役割を見つけて協力していくことが身にしみて学べた。また、子ども達の笑顔が力になるということがよく感じられた。これは先生になる上で、へき地校体験實習を通して学んだことの中で一番大切なことだったと思う。
- ・地域とのかかわりが深く、教職員、子ども、保護者や地域の人々と出会うことが出来たのは宝物であり、今回の實習に参加して、とても良かったと思えた。
- ・今回の實習を終えたことで、今まで自分の中でテレビのような世界であった北海道のへき地がより現実的なものになり、実際に各地に存在していることを感じることもできた。また、教師としての実感を深めることにもつながった。

そして一番の収穫は児童を見て、児童主体の授業をつくらなくてはいけないことを知ることができた。

- ・中学校、そしてへき地校での実習は初めてで、最初はとても緊張していたが、実習校の生徒は素直で優しい子ばかりだったので、すぐに打ち解けることができた。また、少人数ということで、生徒一人ひとりと深く関わることができてよかった。これからは、生徒とのコミュニケーションだけでなく、学習指導・生徒指導の実践的な力を身に付けていきたい。
- ・実習校の児童・教師、そして地域の人々と関わり合うことで感じたのは、人々のつながりがとても温かなものであり、コミュニケーションを大切にできる環境だということです。複式学級での授業を通しての「わたり・ずらし」の指導についての学びなど本当に多くのことを学び多くの「成長」につながったように思います。へき地実習に参加することができて本当によかったです。
- ・子どもとたくさん関わることができ、楽しい5日間だった。低学年から高学年まで仲が良く、休み時間や全校体育では、みんなで楽しく活動することができた。時間のない中授業の準備をするのが大変だったが、複式の学級で授業をさせてもらったのは良い経験になった。また、保育所の方や地域の方とも関わることができ、地域の温かさを感じる場面がたくさんあった。共同生活を通して、学校での実習を通して、いろいろな部分で成長できた1週間だと思う。
- ・指導教諭は学生の私達にもいろいろなことに挑戦させてくれ、授業実習後の話し合いの時間もたくさんとっていただいたので、短い時間で多くのことを学べたと思う。
- ・教職というものについてもう一度考え直させられた。「授業をする」ことだけでなく、学校の事務や学校行事、地域との関係をみることで、学校の様々な側面と仕事を知ることができたからである。子どもと接するだけではない、ということに改めて理解することができた。
- ・児童の人数が少ないので、ゆったりと生活していると思っていましたが、予想は外れました。大規模校と同じ分の仕事を少ない人数の先生方がやること、複式の授業をするということは、単式の2倍考えることがあること、地域との結び付きが強い分、学校の役割、教師の役割が大きくなること、とにかくやることの多さに驚きました。
- ・とても充実した1週間であった。授業を行う、研修に参加する、保護者の方と交流するなどといったことは、大学の座学では習うことができないので、そういったことを知れたのはとてもよかった。自分の人生観も先生方と交流するなかで変わってきたと思う。人生の先輩としても相談に乗ってくださった先生方もいて、私のなかに変化をもたらした1週間であったとも言える。
- ・本当に充実した1週間になりました。子ども達とも沢山触れ合うことができ、最後の日には別れるのが辛いと思うまでになりました。実習中は授業もやらせていただき、普段のフィールド研究では味わうことができない体験をさせていただき、とても勉強になりました。
- ・今回1週間体験実習をさせていただいて、へき地・小規模校の授業の様子を観ることができ、とても勉強になった。また、子ども達ともたくさん関わり、とても楽しい1週間を過ごすことができた。もっとへき地・小規模校の教育について学びたいと思った。ますます小学校教師になりたいと思った。またへき地実習に行きたい。
- ・実習を終えて、小規模校のメリット・デメリットの中で育つ子ども達、またそのような子ども達を育てる教師・保護者・地域の人々の姿を自分の目で見ることができた。人数にとらわれることなく、一人ひとりが自分の可能性を広げようと頑張る姿勢が感じられた。
- ・実習が終わって、教壇実習での失敗や子ども達との思い出など勉強したことがたくさんあり、来年にもこれを生かしていきたいし、これからも実際に先生になってからでも忘れないでいたいと思えるようなすばらしい経験ができました。これからはこのことを後輩だけでなく同期の人などにも伝えていけたら良いと感じました。次に機会があったらまたこうした実習に取り組みたいです。
- ・へき地校での現場の実習は、実際に子ども達や先生方と関わらないと学べないことばかりで、多くの学びを得ることができた。間違いなくこれからの大学生活で生かされるものである。この実習を通して、教師になろうという気持ちが強くなった。
- ・楽しさ、喜びはもちろん、感動が多い実習でした。実際にやってみたからこそ感じられる気持ちがあるということを感じました。子どもの成長を見られることへの喜びを少しでも知ることができたのは、私にとって大きな収穫でした。今回の学びを支えてくれた実習校の子どもたち、教員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

- ・長いようで短かった5日間でした。この実習中にたくさんの人に助けていただいたなという気持ちでいっぱいです。同じ実習先だった実習生の人達ともコミュニケーションをとったり、声をかけ合いながら頑張ることができました。一人では絶対にこんなに実習がいいものにはならなかったし、やってよかったなんて思えなかったかもしれません。実習を終えてもなお、子ども達が今どうしているかなと気になっている自分がとても不思議です。そのくらい私の中で実習が心響くものになったのだなと感じています。
- ・今回、地域というものの良さをすごく感じた。地域と学校の結びつきや、地域が子どもを育てるという姿がたくさん感じられた。小規模で大変な点もたくさん見て、体感した。そのように知識だけではなく、体験を通して学ぶことができた。
- ・大学に入る前から興味があった実習だったので、今回行くことができ本当に良かったと思っています。将来は小さい学校の先生になりたいと強く思いました。本当にたくさんのことを学ぶことができて、良かったです。
- ・もっと実習校にいたかったと思いました。初めての教壇実習があったので、準備など大変でしたが、教壇実習をやって、様々な先生方から感想もいただいて、自分の課題ができたことや、教師になりたいと強く思えるようになったことが、今回へき地実習に行かせていただいて、自分にとっての大きな成長になったと思います。
- ・大規模校とは違った学校の雰囲気、先生と児童が共に遊んでいる姿が多く、児童と教師との関係が近いという印象を受けた。この関係を、大規模校でも同様に築けていけたらいいと思った。
- ・実習に行ったことでへき地校で教師をするという選択に対して積極的に考えられるようになりました。もちろん、複式授業の難しさについては、改めて考えさせられることも多くありましたが、それ以上に人と人とのつながりや温かさが心地よかったです。

7. 実習中、特に指導を受けたことはどのようなことでしたか

- ・とにかく子どもと遊んで、ということ。遊びの中に子どもの人間関係がかくれています。その日その日で気分も上がったり下がったりの子供達とよりよい関係を築くために、先生方も、よく見て対応していらっしゃいました。
- ・子どもと多く関わること、とにかく遊ぶこと。そこから子どもが見えてくるということ。子どもと視線を合わせる。目を合わせること。
- ・授業を進めるテンポが大事だということを特に指導していただきました。1年生ということもあり、授業中にいかに集中力を保てる環境をつくるかということがとても大事で、子どもの発言への反応やタイミング、声の抑揚などでテンポよく授業をするように心がけました。また、一人ひとりの実態の把握をしっかりと、課題や難しさを事前にしっかりと練っておく必要があるという指導もしていただきました。
- ・5日間しか実習できないのだから、できるだけ子どもたちと関わりなさい、と指導してくださった。だから、毎日部活を見に行ったり、スクールバスの乗下車についていたりなど、子ども達がいる間は常に子どもたちと関わろうとすることができた。
- ・教材研究の大切さが本当によくわかりました。実際の現場に立つときは、もっと深く、そして子ども達の実態をよく把握する必要があるとわかりました。
- ・教科指導について特に指導を受けた。生徒に考えさせることの重要性や知識の中から何を教えるかといういわゆる「氷山の一角」の重要性など、教科指導を行う上で大事なことをたくさん教わった。
- ・子ども達にどれだけ自分達で考えて動く活動をさせるか。子ども達と関わる上で何を意識するか(話の聞き方、表情、言葉づかい等)。授業に関する技術(導入部の引きつけ方、子ども達に『生』の情報を与える)。教師がどんな仕事をしているのか。学校と地域のつながりの重要性。
- ・専門教科にこだわらず、いろいろな授業を参観すること。想像しえないトラブルがあっても、真剣に向き合うこと。いろいろな生徒がいるので、注意深く観察し、どのような子がいるのかを把握すること。支援が必要な子は、普通学級にも当たり前のようにいるので、そのことを理解しておくこと。
- ・まずは、服装や言葉遣いなどの礼儀について。服装などについてのプリントや、電話での挨拶についての指導、後日きちんとお礼の手紙を送るよう、特に指導されました。

- ・子ども達一人ひとりの様子や特徴、家庭状況などを教えていただき、それぞれの状態を把握して子どもたちと接することを心がけるようにという指導を受けた。授業においては、文字の形や言葉遣いなどの基本的なところの指導を受け、養護教諭からは一人ひとりの清潔や食事についての注意点を教えて頂き、常に気をつけて観察を行うようにしていた。
- ・とにかく、子ども達とたくさん関わるように指導を受けました。実際は、子ども達の方から絶え間なく話しかけてくれたので、トイレに行っているとき以外はずっと子ども達と関わっていました。
- ・1週間という短い時間であっても一日一日、そして一瞬であっても、課題意識を持って、また、自分はどんな働きかけをするのか、その成果はどうだったのかということをごんごん時であっても欠かさず行う必要があるという指導を何度も受けました。
- ・児童と一緒に体操も走ることも、始まりの挨拶もすること。まずはそれから始めること。
- ・自分の考えの核となる部分をもって接すること。絶対に教師の考えはブレてはいけないということ。子どもがブレた考えに振りまわされてしまう。今後、もう一度、考え直してみたい。
- ・へき地ならではの「わたり」「ずらし」の授業の指導・展開の仕方や、「わたり」「ずらし」における「間接指導」と「直接指導」という工夫した学習過程など、主にへき地の複式学級での授業の指導法について。さらに、へき地校の学校経営についてや学級経営について、複式学級の授業の指導案の書き方、そして、実践(教壇実習)を通して、教師の言葉かけや指示の出し方、教材などについて。
- ・子ども達とたくさん関わることに重きを置かせてくださった。その中で、子どもの特性や関係を観察するようにご指導いただき、そのことが教壇実習はもちろん、観察実習のなかでの机間指導にとっても役立った。
- ・教師と児童の距離感について指導を受けました。私は児童ととても仲良くなり、授業も最終日だったので、授業中は特に困ることもなく、児童も積極的な姿勢で授業に向かってくれました。しかし、質問の仕方や教師への話しかけ方が休み時間の延長になっていることがあるという点について指導を受けました。
- ・授業の中身や技術についてはあまり触れられることはなかったが、それ以外の教師としての言動についてたくさんのごことを教わった。言葉遣いや板書における書き順など、子どもの鏡として生活していくことの大切さを学んだ。
- ・子ども達の中にどんどん入って行ってほしい、どんどん子ども達に教えてあげてほしい、と言われ、初めは緊張したが、自分から積極的に動くことの大切さを知った。日に日に子ども達の中に自分から積極的に入ることができ、子ども達とたくさん関わることでよかったと思う。
- ・私が担当したクラスでは、子ども達ができることは子ども達でやらせる、というクラスだったので、積極的に行おうとしたことが逆に子ども達に迷惑をかけてしまう、ということについて指導を受けた。
- ・教壇実習のことについてが主でしたが、次につながるようなお言葉・ご指導をいただきました。例えば、「楽しめると学べるは別である」ということや、「子ども達の考えた理由をしっかりと聞くこと」などを教わりました。他にも地域との関わりについて教わりました。
- ・とにかく実習期間が短いので、積極的に子どもと関わるよう言われた。また、明確な目標をもって授業観察に臨むよう言われた。
- ・教壇実習の際には、漢字の書き順や言葉遣いについて先生からお話があった。
- ・休み時間や給食の時間などを使って生徒とたくさん関わること。授業では子ども達と一緒に作業すること。できることをたくさん見つける。コミュニケーションを取るには共通の話題を見つける。教科の指導では子どもの発達段階を把握しておくことなどを考慮した計画を立てることが必要。
- ・「若い」というのは最大の武器であるので、実習生はその「若さ」を最大限に活かして子どもとふれ合わなければならない。全力で遊んでいく中で、子どもとの信頼関係はできあがっていく。その信頼関係があれば、学級経営もうまくいくし、教師が困っている時にも協力的な児童となる。
- ・朝の会をやらせていただいて、最初の方は緊張でうまく話すことができなかった。朝の会は一日の始まりなので、子ども達に元気良く始めてもらうために「今日は天気がいいね」などと話しかけ、それから連絡を伝える。まず何点あるのかを伝え、一つずつ伝えていくと良いと指導を受けた。教壇実習のときは時間配分をもう少し考えた方が良かったとおっしゃっていた。

- ・自分から積極的に生徒の中に入っていきことが大事。
- ・実習中、特に指導を受けたことは、地域と学校とが結びついていて、そういったつながりがあるからこそ学校が成り立っているということでした。行事からも、地域の方々の学校への協力の大きさを感じることができました。
- ・児童自身で考えさせることを多く、先生は、児童の知的な気づきに気づいてあげることが大切であるということ学んだ。

8. 実習校で印象に残った活動、指導の先生の言葉や行動は何ですか

- ・全校給食がよかったです。くじを引いて、学年がばらばらになるように席を決め、先生方もみんなで給食を食べます。ただみんなで食べるだけではなく、「三角食べをする」「はしを上手にもつ」など、目標も「いただきます」のときに発表されます。残さず食べることも徹底されていました。指導の先生が「間違ってもよいから、好きなようにやってごらん」と教壇実習をさせてくれたのが印象深いです。
- ・音楽の時間に教えた「虫のこえ」をお別れ会で子ども達が発表してくれ、一緒に歌ったこと。市教研に参加させていただいたこと。指導の先生が実習生である私の授業を見ながら、常に自分の授業力にプラスになる部分を探していたこと。
- ・給食後に歯磨きをする習慣があったことが驚きでした。1年生はタイマーを使って3分を計っていて、健康の指導がしっかりとされていると感じました。指導の先生は子どもに厳しくする基準を自分の中でしっかりと決められている印象で、傍から見ると厳しいなと思うことでも、子どもの性格を把握したうえでやっているもので、過度に厳しくなるということにはなかったように感じました。子ども理解がすごくできている先生だなと感じ、見習いたいと思います。
- ・とにかく子どもとの触れ合いを大切にしている学校、教職員の方々だった。そのお陰で、子ども達が先生方に積極的にに関わりに行くという関係ができていた。この関係は大切であると考えられ、信頼関係の構築にも大きく貢献するものである。子どもと関わることの大切さを考えさせられた。
- ・演劇で、「間違いはない」という言葉が印象的だった。
- ・大学の講義で知った集合学習に参加させていただいて、どういものなのかということが理解できました。普段はできないことをやれる機会でもあるので、すごく子ども達が生き生きとしていたのが印象的でした。
- ・今子ども達に上手に指導できなくとも、今周りの方々に迷惑をかけてしまっても、後で埋め合わせられれば良い、最初から上手くいくことはなく、全ては「順送り」なのだと言われ、心が楽になった。また、校長先生の「経験を越える」というお言葉は、この先の人生で何度も目標にしていこうと思った。現状に満足しない向上心をこれからも持ち続けていきたい。
- ・教員は忙しいが、やりがいがあるということ。
- ・演劇工場での活動と、音楽発表会、立会演説会が印象に残った。どれも生徒が主体で、自己の実力向上やアピールなどをしっかり行っていた。自主性があるなと思った。先生の行動では、生徒と一緒に授業を進める姿が印象に残った。こういったことも、生徒の自主的参加につながることを理解した。
- ・授業をやらせていただいたこと。その時に手助けせず、「先生の授業ですから」と言われたこと。「せっかく授業をやるんだったら、全部やった方がいいですよ」と言われて、ますます頑張らねばならないと思った。
- ・信頼関係ができていからこそ、子どもが一生懸命に授業に食らいついてきたのだと思います、と言われたのが嬉しかったです。授業だけではなく、他の時間でも関係性を築くことが大切なんだと感じました。また、授業でもわからないまま進めても信頼関係を失ってしまうと言っていました。
- ・「児童のわかる言葉で端的にまとめて伝える」「児童はたくさん遊んでたくさん話してくれる先生のためなら、授業を頑張っって受けようと思う。そういった児童の気持ちがあつてこそ、授業はうまくいく」
- ・先生方は、子ども達一人ひとりと丁寧に接していると思った。子ども達が体育館で遊んでいるときには、先生方の誰か一人は必ず参加していて、素晴らしいと感じた。
- ・印象に残った活動は、マラソン大会の練習で行っていたシャトルランです。実習初日から3日間続けて児童と一緒に走り、汗を流したことです。また、普段の遊びを通じて児童の反応の変化を見ることができたという点では遊びも印

象に残りました。先生方も遊びに加わり、中・昼休みなど一緒に児童達と遊んでいる姿は印象的でした。

- ・お別れ会。子ども達がくれたメッセージカードに、実習通信にいつも描いていた私の似顔絵をまねして描いてくれた子が多かったことに感動した。切り絵の記念品をあげたら喜んでくれた。放課後みんなで鬼ごっこをしたりサッカーをしたりかけっこをしたり、外でいっぱい遊んで別れを惜しんだことが印象に残っている。指導をしてくださった先生には、研究授業の準備のため遅くまで付き合っただき、大変感謝している。
- ・「子ども達は先生を見て成長する」という先生の言葉が特に印象に残っている。態度、言葉遣いなど、本当にその通りだな、と思った。これから先教師になったときの心構えになると思うし、自分を変えてくれた言葉だ。
- ・最も印象に残ったのは、待つ姿勢と子ども自ら気づかせようという言葉がけ。うるさくしている子や授業の準備ができていない子どもに「周りを見てごらん、今は何をやる時間だ？」と今すべきことを子どもの口で言葉にさせていた。
- ・実習中の5日間で、社会見学や集合学習などの行事に多く参加、見学することができ、とても充実していた。先生方はみな、子ども達それぞれの性格を知っていて、それに応じた授業の構成にしているときもあるという話を聞き、大切なことだと感じた。
- ・他校との集合学習、市民プールに行きプール学習、学校の隣で行われる神社祭。
- ・中学年の先生が色紙に書いてくれた「先生の涙は忘れません。子どもと関わる上で先生が率直な感情でぶつかることも大切です」ということば。
- ・昼休みに行われた夏休みの作品発表会。「人前に出て話すのが苦手」という傾向が、実習先の児童たちにはあったので、それを克服するための独自の取り組みとして行われていて、印象に残った。先生方が、他の学年、学級の子どものについても深く理解なさっていたこと。へき地ならではの活動だと思った。
- ・他のへき地校との集合学習が印象に残った。へき地ならではの活動で、子どものことを思った活動で面白いと思った。叱るときは子ども（その子）の良い所を認めてから悪い所を言っていた。プール授業のとき、もぐれるようになった子や、長い距離を泳げるようになった子、クラス全ての子ども（3名）をお父さんみたいに褒め、抱っこしていたこと。子どものことを話すときの目がとても温かかったこと。
- ・印象に残った活動は、他校と合同で行った社会見学や合同学習である。5日間という短い期間の中で、何校もの学校の雰囲気を感じることができたし、様々な子ども達と触れ合うことができ、良い経験となった。へき地校ならではの取り組みを学ぶことができた。
- ・子ども達と一緒に過ごした日々は忘れません。学校の給食、掃除では分からないことを優しく教えてくれたこと、家でのこと友達の話などたくさん会話をしてくれたことは、実習で不安だった私を励ましてくれた。先生の言葉では、一緒に支え合って学芸会を成功させようという言葉が心に残った。私も一人の先生として先生が思っただけにいるような気がして熱い気持ちになった。
- ・「最初は真似から入る」「まずは99%真似、1%想像」という校長先生のお言葉が鮮明に頭に残っています。まずは、自分がやりたい、なりたいという理想像を見つけ出して実践するという大切さに、実習を通して気付きました。そして、できる限り自分も真似をしようとする行動も出せました。
- ・私が特に印象に残ったのは、けんか仲裁に入った場面である。後で「どんなことを意識して話をしているんですか」と問うたときに、まずは事実(現状)の確認、1. 何で怒っているのか、2. 何が起きたか、3. 何に傷ついたのかを中立の立場でみて、そして子ども達にどうしたいかをたずねる。仲直りもできるだけ子ども達の中からやらせてあげたいと。子ども達にどんな人になってほしいのかをイメージすることも大事であると教わった。
- ・学芸会。子どもをほめる言葉。怒った姿を一度も見えていない。毎晩、子ども達のために働いていた姿。
- ・地域の神社祭。学校の先生の殆ど全員が参加。印象に残った先生方の行動は、時間は1分1秒単位で計画し行動していること、仕事上の連携では「報・連・相」を大切にしていること、生徒と楽しく関わり合うも指導の面では切り替わって真面目な場面をしっかりと作りだすことなど。
- ・マラソン記録会のとき、地域の方々や保護者の方々が応援に来てくださっていて、とても仲が良さそうに教職員の方々と話しているのが印象的だった。児童を教育するための体制ができていたのだと感じた。
- ・「算数病院」などの名前をつけ、放課後、低位の児童に勉強を教える活動。担任の先生だけでなく、教頭先生や養護教諭なども一緒にその活動をしていた。

- ・交流集会での地域との結びつきの強さ。担当教諭の先生の「子ども達のために」という強い思いが印象に残っています。常に子ども達のことを思って動いて働きかけているように見えました。
- ・実習校では、体力づくり運動や体育の現場を実習を通して体験してみて、自分達でのルールづくり（1～6年生合同のため、ハンデなど）やサポートし合う姿勢など、「楽しむ」ことができ子ども達に対して一人ひとりに合った言葉かけをしていて、その言葉かけに対して子ども達の表情や態度が活気に満ちあふれたものになっていて、本当に子ども達のことを理解しているのだろうと思った記憶がある。
- ・朝の体力づくりが印象に残っています。毎週テーマを決めて内容が違うそうですが、私達が実習に行った時は、体力づくりでした。6年生が中心になって、先生がいなくても全員が集まって活動に取り組んでいる姿が印象的でした。また、担任の先生の「自由にやっつけていいよ」と授業前に言われた言葉も印象に残っています。この言葉のおかげで特に緊張もせず、楽しんで授業をすることができました。
- ・朝学習の時間に全校でボール運動をしていたこと。休み時間や放課後の時間も学年関係なく仲良く遊んでいた。特に高学年の面倒見の良さには驚かされるばかりだった。
- ・毎週金曜の朝に音読発表会を行っていたことが印象的でした。
- ・山登りは、子ども達の一生懸命さに自分も頑張ろうという気持ちを持つ。教壇実習のとき、子どもの様子を見て、サポートにまわっていただき、心にゆとりをもって進めることができた。
- ・1年生や2年生の単式学級でも、来年やそれ以降に複式になることを考えて、自学自習をすることができるように対応しているのが印象的だった。
- ・本当に様々な活動をさせていただいていい経験をする事ができたのですが、その中でも授業をさせていただいたことが一番印象に残っています。失敗だらけだったのですが、自分の課題を知ることができました。担任の先生に励ましていただいたこともとても力になりました。
- ・印象に残った活動は、自分が授業の少しの時間を頂いて、子ども達に授業をしたことである。印象に残った先生の言葉や行動は、担任の先生は子ども達に注意したり叱ったりすることが多いが、決してそれは冷たさではなく、子ども達の可能性をのばすため、またほめられることを日常的なものとして感じさせないためである。そうすることでたまにほめられたときに子ども達は本当に嬉しいと感じるから、という言葉や行動である。
- ・お祭りや学校行事(水泳記録会)などの大きな活動はもちろん、子ども達と一緒に過ごした休み時間などもとても印象深く残っています。校長先生からのお言葉で、「自信の持てるような特化した教科・科目をつくと良い」という言葉はとても印象に残りました。
- ・水泳の授業をし、記録会という発表の場を見せること。動物園が出前授業をして、実際に動物と関わらせる授業。へき地には刺激が少ないから外部講師を積極的に招く。
- ・先生方から以下のような言葉をいただいた。「授業は楽しく」「教育に一貫性を持つ」「どういう子どもを育てたいか」。印象に残った活動は、お祭りのときに生徒達と行った肝試しやカラオケである。しかし、生徒達との活動は全てが印象に残るものであった。
- ・印象に残った活動は、最後の全校道徳です。緊張して言いたいことを言えなかったり、失敗をたくさんしましたが、その分学ぶことが多かったです。指導教官の方からは、コミュニケーションのことについてや授業のことについての指導をしていただきました。
- ・一番は教壇実習です。その際、先生に「先生が楽しくできない授業は子どもも楽しくはできない」といわれたことがとても印象的です。そのことが私の今回の実習で授業をするという立場に立って考えていたことが違っていると気づくことができたきっかけとなりました。印象に残ったもう1つの活動としては、子ども相撲です。あんなに地域の人達とふれあい一緒になって楽しめる場があることに驚きました。
- ・教壇実習として行った道徳。自分のつたない言葉でも真剣に目を見て話をきいてくれて、将来についてたくさんのことをワークシートに書いてくれた。生徒達との関係や、自分の思いが伝わって良かった。朝の会、帰りの会。朝の会や帰りの会が持つ役割を知った。
- ・英語暗唱・スピーチ大会と全校給食が印象に残った。英語大会は司会や挨拶も英語で行っていて、すごいと思った。全校給食は生徒と先生方が縦割り班になって話しながら食べていた。最後に「先生方の中学時代」というテーマでス

ピーチを行っていて、面白い企画だと思った。また、講話で校長先生が教員にとって大切な資質は「人間力」だという言葉が印象に残った。

- ・職員室で常に子どもの話をしていたこと。休み時間も子どもと一緒に遊んでいた先生がいたこと。
- ・子どもと本気でドッジボールをして楽しむ先生方の姿。仕事が終わっても子ども達のことをずっと考えていて、本当に子どもが好きなんだと感じたこと。
- ・今回へき地実習で印象に残った活動は、やはり地域と学校で行った収穫祭やお祭りでした。収穫祭では地域の方とお話をしながら、みんなで料理をつくって食べたというのが本当に楽しかったです。お祭りでは、みんなで夜頑張ってお練習した獅子舞を地域の方に披露しているときに感動しました。また、今日校長先生の「若さは武器。ほめて伸ばす。やさしさときびしさ」という言葉はとても心に残りました。
- ・学校の隣にある児童専用の畑を使った「畑の学習」や、実際に酪農家を訪問させていただいて酪農体験をさせていただけたこと、また、町の特産品であるお蕎麦を打たせていただけたことなどが印象的でした。
- ・職員室での雰囲気として、なんでもない時間に、児童のことを話し合い情報を共有し合う空間にすることがよいとおっしゃっていた。
- ・酪農体験、授業をしたことが印象に残っています。先生方は子どもを第一に考えながら、適度な距離感で接しているのが印象的でした。